

先ほど読んでいただきました聖書は、主イエス様が天に帰られてから十日後に、弟子達に聖霊が降された記事でありました。弟子たちは聖霊に満たされて、その語らせるままに他国の言葉で話し始めました。内容は神様の偉大な御業についてだったのです。これが聖書の伝える聖霊降臨の出来事でした。

旧約聖書の創世記には、この聖霊降臨の出来事とは対照的なバベルの塔の物語が出てきます。

『世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動してきた人々は、シニアルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである』

人間は自分が神になりかわれるものだと誤解してこのような塔をつくらうとしたのでした。神様は人々の言葉を乱し、この行いをやめさせました。世界に様々な言語があるのを作者はこのように理解したということです。

その人間が今度は神様偉大な働きを聞くということで、言葉の壁が越えられたということなわけです。神様によって散らされた言葉は、再び神様によって乗り越えられ、伝道によってすべての民に一致が与えられたのです。ここに記されている地名は地中海沿岸の主要都市ですが、当時これは全世界を現しておりました。神様の偉大な働きを、全世界の人々が聞いたのです。

聖霊降臨の記事は多くのことを私たちに伝えておりますが、本日は二つのこ

とに心を止めてみたいと思います。

まず聖霊降臨がなければ教会の誕生はありえなかった、ということです。物音を聞いて集まった人達は、最初弟子たちが酒によっているのではないかと思いました。しかし弟子の一人ペトロは、聖霊によって力付けられ、神様がこの世にはじめられた救いのみ業を宣べ伝えたのでした。それを聞いた人々は大いに心を打たれ、約三千人が洗礼を受けたと記されております。こうしてキリストにあって一つとされている人々の集まり、すなわち教会が誕生したのです。聖霊降臨日は教会の誕生日でもあるのです。従って教会にとって聖霊降臨日は大変重要な日なのです。聖霊降臨日は主イエス様の誕生日である降誕日、そして復活日と並んで教会の三大祝日に数えられていますけれども、降誕日や復活日ほど聖霊降臨日は重要な日だとは考えられていないようです。しかし教会にとって聖霊降臨日は一番重要な日であることをよく覚えておきたいものと思います。

そして第二は、教会の使命は弟子たちがしていたように、神様の偉大な業を宣べ伝えること、すなわち救いの業を全うされた、主イエス様を伝えることだということです。教会は主イエス様の姿を、生き方を、教えをまだキリストを知らない人々に伝えていく使命を負っているのです。それは教会が誕生した日から、教会に最初に与えられた使命だったのです。しかしここで大切なのは、弟子たちはこの日のために猛勉強をしたり、何を言おうかと事前に話し合っていたのではなかったということです。それは御霊すなわち聖霊の語らせるままに語っていただけだったのです。私たちへのメッセージは、弟子たちと同じように私たちに語りかける聖霊の声をさまたげる罪や生涯を遠ざけて、聖霊が語らせるままに語り、行動することが出来るように祈ることです。この日から今日に至るまで聖霊は私たちに強く働きかけています。教会の使命、そして私たちが聖霊に従って生きることを本日の聖書は教えております。聖霊の働きによって強められた弟子たちと同じように、私たちも強められていきたいものです。

最後に主イエス様の御言葉を聞きましょう。『何をどう言おうかと心配してはならない。そのときには、言うべきことは教えられる。実は、話すのはあなたがたではなく、あなたがたの中で語ってくださる、父の霊である』。